

# お代様年譜

						社会情勢			
		お代様		御神言		清光先生 宮司様		日本 他国(米英中露等)	
1894年	明治27年							日清戦争	
1895年	明治28年							日清戦争勝利	1895年
1902年	明治35年							日英同盟	
1903年	明治36年								1902年
1904年	明治37年							日露戦争・日韓議定書締結	
1905年	明治38年						1月19日	清光先生ご誕生	1904~05年
1906年	明治39年							ポーツマン条約	
1907年	明治40年							戦後恐慌(綿・生糸暴落)	1907年
1909年	明治42年	0歳	3月13日	誕生 山口県大津郡三隅村宇市 父:本山与吉 母:ひさ 四女	『神が代人として吾が世に生まれいだした者ぞ。』(昭和25年1月)			ハルビンで日韓独立運動家に伊藤博文が暗殺される	1909年
1910年	明治43年	1歳						日韓併合	1910年
1914年	大正3年	5歳						第一次世界大戦開戦(7月)	
1915年	大正4年	6歳		小学校入学				日英同盟を名目に独に宣戦布告(8月) 中国の独の根拠地青島を占領(11月31日)独領南洋諸島まで支配を広げる 中国の利権を計り袁世凱政権に「21条を要求」(1月18日)・大戦景気	1914年
1916年	大正5年	7歳(小1)		小学校入学。まだお乳を飲んでいた。7~8歳から狐火、火の玉、人魂を見たり不思議な事に出会うようになる。					1915年
1917年	大正6年	8歳(小2)							1916年
1918年	大正7年	9歳(小3)						ロシア革命(2月、10月) ソビエト社会主義連邦設立(11月)	1917年
1919年	大正8年	10歳(小4)						シベリア出兵宣言(8月)・米価高騰	1918年
								ヴェルサイユ条約調印ドイツと講話	第一次世界大戦終結(11月) 中国国民党結成・朝鮮で反日独立三一運動、中国で五四運動
								満鉄守備隊関東軍と改称	
1920年	大正9年	11歳(小5)		義理姉病のため甥を連れて学校へ。				国際連盟設立(3月)	1920年
								戦後恐慌(株式、米、綿糸暴落、農村困窮、中小企業倒産)	
1921年	大正10年	12歳(小6)							中国共産党結成・
1922年	大正11年	13歳		氏神様の春祭りの日小さい頃から苦しんでいた膀胱炎が結石が出て治る。				日本共産党結成	1921年
				小学校卒業。姫路に子守り奉公に出るが病気になる半年で家に戻る(電報の間違いから「死す」と知らせる)					1922年
1923年	大正12年	14歳		奉公先(山口県湯田?)に幽霊が出る				関東大震災	1923年
1924年	大正13年	15歳							1924年
1925年	大正14年	16歳	6月2日	萩のA姉の夫隣家の火事により縊死				治安維持法・普通選挙法成立	1925年
			8月2日	姉の家に居て父の死を予知父田圃で急死 以後家族が不幸になっていく その後姉の家を離れ働きに出る					
1926年	昭和元年	17歳		肺炎で一週間昏睡状態となる			12月15日	宮司様ご誕生	1926年
1927年	昭和2年	18歳						イタリア、国家ファシスト党の一党独裁となる	1927年
1928年	昭和3年	19歳						金融恐慌(取り付け騒ぎ)	1928年
1929年	昭和4年	20歳						第1回国政普通選挙行われる・張作霖爆殺	1929年
1930年	昭和5年	21歳		結婚するも離縁する 岡山のB姉をたよる B姉の夫商売に失敗したことを知り、200円を工面。父七回忌				世界恐慌(10月)	1930年
								昭和恐慌・北海道東北大凶作	
1931年	昭和6年	22歳		長兄に父の墓建立費を送るが使われてしまう。更に家を手放さなくなると300円を金を無心される半年後更に無心 小豆島に渡る 長兄に迷惑を掛けられ他の兄達家族サイパンに出稼ぎへ 母を引き取る				教員初任給50円 白米10キロ:1円66銭 柳条湖事件・満州事変始まる(9月18日)	中国本土の蒋介石 中国国民党の中国全土の統一を目指す
			?					満州事変拡大	

1932年	昭和7年	23歳(数え24歳)	2月6日(旧暦12月23日)自叙伝	大神様にお救い戴く	『代よ、吾は天津神玉光大神じゃ、これから吾が申し聞かすことを、良く聞け。今から五年の後、天がさかさになるような戦争が起こる。吾はそれを済度に降った神じゃ。』	27歳(数え28歳)	7歳(数え8歳)	暮れ(旧暦?)	28歳の暮れに初めてお代様にお会いした(「清光先生」P260)	日本人僧侶殺害がきっかけとなって、上海で日中両軍が衝突する(第一次上海事変1月18日)。  日本軍が中国軍に対して総攻撃を行う(2月20日)  満州国建国宣言(3月1日)  五・一五事件、犬養首相暗殺される	アメリカが日本と中国に、日本の満州占領不承認を通告する。(1月7日)	1932年	
				注:2月6日は旧暦では23日でなく1月1日でご記憶に誤りがあったのかもしれませんが。しかし、清光先生、宮司様の右記のお話を考え合わせますと新暦2月5日より一週間前が旧暦12月23日となりお代様のお話と符合いたし新暦では1月30日となります。  以降、5年、毎日昼夜を問わず二人で山、滝、海と苦行をされる。 この間、多くの奇跡を以て人々を救う	『吾は、世界を救う為に降りたる神である。人々の病を治し、困難を助けるのは末のわざである。汝も吾が意を体して、世界平和の為に祈れ。』			2月5日	与九郎稲荷で出会う。(「お代様-御救い神業」P403) 宮司様のお話「神様が御降臨されたのは、与九郎稲荷で出会う一週間ほど前であった。」				
1933年	昭和8年	24歳			『代よ、神には立派な宮も、位もいらぬ。ただそち達人間を救う為の方便として、位も付け、立派な宮も建てているのだ。吾も必要なれば、どんな立派な宮でも建てて。決して人の言葉にわずらわされて、無理な思いや無理な事をしてはならぬ。初めの無理は必ず終わりまで続き、苦しむことになるのだ。H教団であんな立派な殿堂を建てているが、無理がたたり二、三年のうちには教団が解散するようになる。』	28歳	8歳				ヒットラー首相就任(1月30日)	1933年	
								12月20日	昭和8年淵崎丸山に社を建立12月20日明方4時御遷宮(「お代様-御救いの神業」P404)		国際連盟より脱退(2月)  国際連盟満州国を独立国と認めず・国際連盟脱退を通告(2月9日)  ルーズベルト首相就任(3月4日)  ドイツ国際連盟を脱退(10月14日)		
1934年	昭和9年	25歳			『此の子は十六歳の時に一命を落とすような大病にかかる。その時が越せば後には大成をなす事が出来る。』	29歳	9歳		16歳の時命を落とすような大病をすると御言葉を戴く	室戸台風(9月21日)  大凶作(庶民生活の破綻進行)		1934年	
			12月22日	神様にお計らいにより台風をまのがれ小豆島丸山に初めてのお宮落成									
			12月23日	御鎮座戴く。									
1935年	昭和10年	26歳			『オリンピック(1940年東京で開催予定)は中止となる。今に大変なことが起きる』	30歳	10歳						1935年
1936年	昭和11年	27歳			株のお諭し・『株式市場は当分休みになる』『国家的事変が起こり大混乱がおこる。・・・』	31歳	11歳			大本教弾圧(1月) 二・二六事件	ロンドン軍縮会議日本脱退す(1月) 中国共産党紅軍が抗日東征宣言(2月)チャップリンの「モダン・タイムス」が封切られる。(2月)	1936年	
				東京に移り住んでいた岡山のB姉危篤と電報が入る。看護をしようと上京のおり母と一端萩へ帰る家が人手に渡り墓も土饅頭のままであった事を知る。 神様より前生の罪をお聞きする。									
			7月14日	東京のB姉の看病に上京	『代は上京するにつき、そちがかわりて社に移り、祭事を頼む。』(7月13日)						IOCでの投票で東京オリンピック開催決まる(7月31日)		
			9月?		『そちは今から俗縁を断ち切って、吾の所へ参り、代と二人で吾の示す道を説け。代も決して小豆島へ帰ってはならぬ。中央に留まり、二人が力を合わせ、世のため人のために尽くせ。今に日本の一大事が起こる』						H教団特高警察の立ち入り検査うける(9月)、翌年教団解散(「自叙伝P140以下)		
			11月	清光先生宮司様と別れ再上京	『すべてを我に任せて上京せよ。誰がなんと申して止めても来るか。』18日			11月17日	清光先生家庭の問題を考えた末御言葉を賜りたく上京		日独防共協定締結(11月25日)		
								11月24日	帰島し離婚し、宮司様によく言い聞かせる。				
			12月18日	お代様、清光先生師弟の縁を結ばれる	『今日より白衣を着よ』『代とそちは車の両輪のようなもの、また我の前にある神酒すずのようなものじゃ。どちらが欠けても吾の役に立たぬ。よく心して仕え、精進せよ。』			12月18日	再上京				
									注:清光先生の上京に関しまして、お代様と清光先生の記述が異なっております。				
1937年	昭和12年	28歳				32歳	12歳	1月	清光先生に『春を待て』正月の福引きのお言葉(方南町一お母様のお家、その後代田橋へ) 神様は『吾の子だから先でこうする』とは仰らない。				





			<p>？疎開する前の時期 信徒、森園氏家で、釜のご飯が日の丸の様に赤く染まる。右記の御神言</p> <p>7月7日 その夜(サイパン玉砕)、防空壕に落ち腕を折る。</p> <p>7月18日 大本営発表でサイパン玉砕を知る。サイパンの姉夫婦は無事であったが、兄夫婦とヤップ島の叔父一家は帰らぬ人となる。</p> <p>10月？</p> <p>10月～11月？雪という記述、木曾に行かれる前ではないかと推測</p> <p>11月10日</p> <p>信者に行かれては困ると乞われ躊躇。</p> <p>11月24日 東京で一番さきの空襲の時、明治神宮を狙った爆弾が隣家に落ちたが不発弾で命は助かったが、爆風で庭先の踏み石に落ち膝を痛め足が立たなくなる。</p> <p>11月25日 清光先生の肩に縋り、着の身着のままお詣りに出る。道中、高崎で空襲に遭い、やっとの思いで木曾の宿にたどり着きダイナマイト騒ぎに合う。</p> <p>11月末</p> <p>12月20日 木曾の八海山、清滝にて21日間の満願の日</p> <p>12月23日 小豆島帰島</p>	<p>『森園、そちの主人は大政翼賛会に寄与しているが、よく人選をせぬと良い政治は行われぬ。今に日本が赤くなって、白いご飯は食べられなくなる。その日の来るのを主人に示しているのだ。』</p> <p>『戦争を止めるには、今が一番良いときだが、代が手を折ってしまつては上げることもできぬ。今においては和睦の時はあるまい。明日から一週間休め。明日の朝、神前にも玄関にも白い紙を貼っておくように。』</p> <p>『東京においては命を全うできぬようになる。国策に沿って早く疎開せよ。代達二人は全国の要所要所を清めて回れ。』</p> <p>『此の一大事の祈りの時、私情にとらわれて心を乱してはならぬ。博に会うことは次の機会にせよ。』</p> <p>『代よ戦局が急変した。早く本宮に帰れ。信者にも早く疎開するように申せ。』</p> <p>『命を全うした礼として、直ちに木曾の山に詣れよ。』 『今でないと、東京からは生きて出られない。』</p> <p>『明日から21日間、八海山に登って必勝の祈りを捧げよ。』</p> <p>『天神は天に帰り、地神は地に降れ。此の逆さごとを正さねば、地上に平和はこぬ。』</p> <p>『代よ、三種の神器は守り通す。中津国をも守り通すぞよ。長い間、ご苦労であったが、必勝の祈りは、もう今日でよいから山を降り、小豆島の本宮に帰り、暫く籠城しておれ。』</p>	<p>9～10月 第2回目の手術の傷癒ず、検査が続く</p>	<p>マリアナ沖海戦完敗(6月19～20日)</p> <p>学童疎開始まる(7月)</p> <p>サイパン島玉砕(7月7日)</p> <p>神風特攻を開始(10月25日)</p> <p>東京への空襲開始(11月24日)以後106回</p>	<p>連合軍、ノルマンディー上陸(6月6日)</p> <p>パリ開放(8月)フランス共和国臨時政府成立(9月)</p> <p>インドシナの日本軍が軍事用麻袋を作るために稲作から朝の栽培に転換させ、米を強制的に買い上げたため、干ばつの飢饉で200万人が死亡。</p>	
1945年	昭和20年	36歳	<p>？</p> <p>御神言を戴いて後、毎日奥山の弘法の滝に世界平和のお祈りに詣る。</p> <p>？</p> <p>皇踏山で朝陽の光の中での祈りで、右記御神言を戴く。</p> <p>？</p> <p>柳田毅三氏が「満州に仕事の整理に行きたい。」に右記の御神言</p> <p>6月末</p> <p>湯浅氏夫婦と一緒に皇踏山の井戸のある所での御神言</p>	<p>40歳 20歳</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>？</p>	<p>第三回目の4時間半にわたる大手術</p> <p>死を覚悟され自身の社を自らの手でお作りになる。</p> <p>海軍予備学生として入隊。</p> <p>厳しい訓練の騎馬戦で手術の傷が裂ける。</p>	<p>近衛文麿天皇に上奏(2月14日)</p> <p>上奏文:「敗戦は遺憾ながら最早必至なりと存候」で始まる「近衛上奏文」を奏上し、英米の世論は天皇制廃止にまでは至っていないとの情勢判断の下、いわゆる「国体護持」には敗戦それ自体よりも敗戦の混乱に伴う共産革命を恐れるべきであるとの問題意識を示した</p> <p>東京大空襲(3月10日)</p> <p>硫黄島陥落(3月26日)</p> <p>米軍沖縄本島に上陸(4月1日)</p> <p>明治神宮本殿拝殿焼失(4月14日)</p> <p>東郷神社・乃木神社焼失(5月)</p> <p>二度目の東京への大きな空襲(5月25日)</p> <p>ソ連を仲介とする終戦工作方針を決定(5月14日)</p> <p>福岡空襲(6月19日)</p> <p>仙台空襲(7月10日)</p>	<p>ヤルタ会談(2, 4～11月)</p> <p>ルーズベルト大統領没(4月12日)</p> <p>ソ連軍ベルリンに突入(4月23日)</p> <p>ヒトラー自殺(4月30日)</p> <p>独無条件降伏(5月7日)</p> <p>独。東西に分裂(6月)</p> <p>国際連合成立、加盟50カ国(6月)</p>	1945年

			？		ある信徒に『そち達のために知らせておく必要があるから申すのだが、決して他言してはならぬぞよ。来たる八月中頃になれば戦局が急変するが、急いで東京に帰ってはならぬ。落ち着いてから九月になって、月末までに東京に帰れ。』 『代よ、月の割れたのは見誤りではない。今に世界があの月のように三つに分かれてまた争う時が来る。なげかわしいことだ。此の戦争が終わった後、まず、東西の横綱なの大相撲がある。その時、日本は土俵の置かれる場所によっては、フンドシかつぎの役目は免れまい。』 『国民皆が、神も仏も見失って親と子が殺し合う時が来る。哀れな者ぞ。』		？	横須賀にて防空壕掘削作業の壕の中で生死を越えた状態にあり、亡くなった義理弟のためにお祈りをされている時に神様との合一を得る	近衛文麿がソ連に和平斡旋を申し入れ(7月13日) 米、原爆事件成功(7月16日) 米・英・ソ連、ポツダム会談開始(7月17日) ソ連、日本からの和平拒否(7月18日) 米、トルーマン大統領ポツダム宣言(7月26日) ソ連、日本に宣戦布告(8月8日) ソ連軍対日参戦(8月9日) 中ソ同盟条約調印(8月14日) 天皇の終戦玉音放送(8月15日) マッカーサー厚木に到着(8月30日) ミズーリ船上で降伏文書に調印(9月2日) GHQが東京に設置される(10月2日) マッカーサー五代改革を司令、憲法改正を示唆(10月11日)	米、原爆事件成功(7月16日) 米・英・ソ連、ポツダム会談開始(7月17日) ソ連、日本からの和平拒否(7月18日) 米、トルーマン大統領ポツダム宣言(7月26日) ソ連、日本に宣戦布告(8月8日) ソ連軍対日参戦(8月9日) 中ソ同盟条約調印(8月14日) 朝鮮半島南北に分離、米ソ介入 "マッカーサー"メルボルンから東京まで思えば長かった。長い長いそして困難な道のりであった。しかし、これで万事終わったようだ" "過去の出血と殺戮の中から信仰と理解に基礎付けられた世界が、また人間の威厳とその抱懐する希望のために捧げられるよりよき世界が、自由と寛容と正義のもとに生まれ出んことを..." ベトナム民主共和国独立宣言(9月2日)			
			8月4日	小豆島、百足山の上の三日月が三つに割れる。									
			8月？日	上記の奇跡の後間もなく、八幡様と現在の神社の間の空中に、クッキリと日の丸の畑が上がっているのを見て勝つと心に決めていたが・・・。									
			8月？日		『代よ、博をそのまま父の許に置いては、折角命を全うして帰ってきた博がまた命を失うようなことが起こる。早く許に行き、話し合って連れ帰れ。』 『今日から吾子博(博を吾子とお呼びになられました)をそちにあずけおく。東京に連れて行き学問をさせよ。十年の後には博に吾の道を打ち立てさせん。』		8月？日	終戦にともない除隊、復員					
			8月？日		『代よ、1950年(昭和25年)が来れば、日本は元の平和な日本になるぞよ。』								
1946年	昭和21年	37歳	3月	播州社町持宝院に招かれる		41歳	21歳				天皇の「人間宣言」(1月1日) 政府作成の憲法改正案をGHQが却下(2月) GHQ案をもとに憲法改正案作成、審議の上可決され、11月3日日本国憲法公布	第1回国連総会、安全保障理事会成立(1月) チャーチル「鉄のカーテン」演説、冷戦の始まる。(5月) ベトナム独立同盟と仏軍とのインドシナ戦争始まる(12月)	1946年
1947年	昭和22年	38歳	2月2日 春 12月	持宝院石の参道完成 上京(高円寺) 東中野へ移転 「みさきわけ」第一号発行				3月	高松高等師範卒業		日本国憲法施行(5月)		1947年
1948年	昭和23年	39歳		祝詞「玉之光」初版発行								イスラエル建国宣言(5月14日) アラブ連合軍、イスラエルを攻撃。第1次中東戦争(5月15日) ソ連、ベルリンを封鎖(6月24日) 大韓民国成立(8月15日) 朝鮮民主主義人民共和国成立(9月9日)	1948年
1949年	昭和24年	40歳	4月8日	井の頭に移転								西独成立(5月23日) 中華人民共和国成立(10月1日) 東独成立(10月7日) 中国国民政府台湾に遷都、200万人移住(12月8日)	1949年
1950年	昭和25年	41歳	1月 7月17日 7月23日	奥多摩の御嶽山に願ほどきのお詣り。 右記御神言により、清光先生、博先生三人で早朝水行をする。 上記満願の月次祭の朝	『今日より水行を一週間せよ。世界平和の一日も早くらんことを祈れ。』 『講和条約が秘密裡に調印された。』						朝鮮戦争始まる(6月25日) 韓国国連軍大敗(7月31日) 国連軍、38度線を突破(10月8日) 中国人民解放軍、戦線出動(10月25日)	1950年	
1951年	昭和26年	42歳	4月1日 4月8日	感謝祭、右記の御神言	『今日から7日七夜世界平和のため神々が集まり御評議がある。』 『今日から七日間、世界平和の一日も早いように祈れ。』						NATO軍発足(4月2日) 朝鮮戦争休戦会談始まる(7月10日) サンフランシスコで対日平和条約、日米安保条約調印(9月)	1951年	
1952年	昭和27年	43歳									占領終了、対日平和条約発効		1952年

